



鶴からの手紙

真鶴中学校だより 第二一六号

2020.7.31
責任者
市川 麻美

「一学期」終了です…

「一学期」とは言っても、たった二か月の短い学期となってしまいました。学年ごとの分散登校から始まり、少しずつ学校で学習する時間を長くしながら、三週間かけて全校登校、そして部活動を含めた通常日課へと移行しました。そこからさらに一ヶ月が経ちました。生徒の皆さん、保護者の皆様、そして私たち職員にとっても、このような非常事態は経験したことがなく、最初は困惑するばかりでした。しかし、徐々にこの生活様式に慣れて、当たり前前にできるようにになりました。

そんな中、再度コロナウイルスの感染拡大が懸念されている今、ここでもう一度確認していきましょう。「マスク着用と手指消毒（手洗い）による効果」と「三密防止」



は「自分が感染しない・人に感染させない」ためにとても重要であるということ。
『with コロナ』の生活で大切なのは、難しいことよりもできること、例えばマスクをつけていること、手洗い（消毒）：うがいの徹底だと思えます。これだけでもかなりの効果があるはず。是非、皆さんも今一度感染拡大防止のために、自分がするべきこと（学校再開後にまず確認したこと）を再確認して日々生活してください。その上で、「少し短い夏休み」を日々『笑顔』（放送による修了式で話しました）で有意義に楽しみましょう。

三年生は進路決定に向けて、不安なことだらけかもしれません。真鶴中職員全員でサポートします。で、心配なことは遠慮なく相談してください。一・二年生ももちろん何でもどの先生にでも話してください。八月二十四日、また「学校」で、皆さんの元気な『笑顔』が見られるのを楽しみにしています。

一学期を振り返って

「自分が一番がんばったこと」

三年

一番がんばったことは勉強です。英語とか数学とかのワークとか、できるところをやったり、予習とかをして、授業で理解を深められたと思います。小テストとかも、点数でちゃんと授業を理解していると自覚できてはいるし、何より楽しいと感じられました。それに先生に「がんばってるじゃん」とか、ほめられたのが本当にうれしかったです。

三年

四月からずっと検温をすることになっていくけど、一日も忘れることなく毎日測ることができました。しっかりと意識をもつてやらないとできないことなので、自分なりに頑張れたと思っています。休校期間中も学校が再開してからも体を動かしていたので、体がなまらず生活することができていたと思います。



三年

朝起きて、よく忘れそうになるけど、きちんと体温を測って記録しました。ハンカチを忘れないための工夫も自分なりにすることができました。



また、部活動説明会もがんばりました。一年生の前で三年生のよい姿を見せたいという思いもあり、説明を暗記しました。発表は緊張もしたけど、分かりやすくするためにしっかりと話すことを意識することができました。

三年

一学期は、勉強と部活動がんばりました。どちらも休校期間中ではなくなってしまい、勉強の習慣や体力が落ちてしまうなど、休校期間前に身につけたものが崩れてしまいました。そこで少しでも元の自分に戻せるようがんばりました。

二年

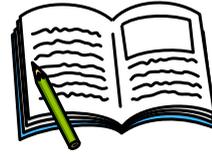
忘れ物をしないように心がけた。宿題はマナログに記入したりして工夫して取り組んだ。また、家庭学習を自主的に取り組むことができた。生活面では、時間を守るように気



二年
時間をなるべく守って行動するようになり、身だしなみも気をつけるようになりました。挨拶もたくさんできました。学習面では、先生や周りの話をよく聞いて、作業などに遅れずに取り組むようになりました。

二年
一年の時より、自分から周りに話しかけるようになり、話し合い活動ができるようになった。また、家庭学習を自分からできるようになった。生活面では、時間に余裕をもって行動するようにした。

二年
遅刻しないで時間に余裕をもって登校すること、公共物を大切に扱うこと、返事や挨拶をちゃんとすること、をがんばりました。学習面でも同じようにがんばった結果、宿題を必ずやるのができたとし、忘れ物をすることなく学習できました。



二年
忘れ物をしないことを一番がんばりました。何回も忘れ物をしたら周りに迷惑がかかっちゃうと思うので、気をつけました。あと、前日に準備をちゃんとするようにしました。

一年
あいさつを一番がんばりました。小学校の時は、恥ずかしいとかがあってあんまりでき

一年
クラスに協力することについてがんばりました。みんなのために自分ができることは頑張ってたと思います。学習面については、前は忘れ物が多かったけど、一学期は忘れ物をあまりすることがなく過ごせたのでよかったです。

一年
遅刻しないで時間に余裕をもって登校すること、公共物を大切に扱うこと、返事や挨拶をちゃんとすること、をがんばりました。学習面でも同じようにがんばった結果、宿題を必ずやるのができたとし、忘れ物をすることなく学習できました。

一年

一年

一年



真鶴中学校では、新しい学習指導要領の趣旨に基づき、保護者や地域のみならずともに教育活動をするためにまいりますので、引き続きご協力をお願いします。

「これからの学び」
中学校では、来年度から新しい学習指導要領による学習が始まります(小学校は今年度から始まります)。中学校でも特別活動や特別の教科、道徳等の一部の教科等については、すでに始まっています。

学習指導要領とは、全国どの学校でも一定の教育水準が保てるよう文部科学省が定めている教育課程(カリキュラム)の基準です。およそ十年に一度改訂され、これを基に子供たちの教科書や時間割が作られます。

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい。新しい「学習指導要領」には、そうした願いが込められています。

なかつたけど、今は少しはするようになりました。

お子さんが学校で学んだことについて、ご家庭で、ぜひ話してみてください。

保護者の皆さまの働きかけが、子供たちの「生きる力」を育む大きな原動力になります。保護者の働きかけがある子供の学力は高いという傾向があります。

例えば…

- 学校や友達のこと、地域や社会の出来事など家庭での会話が多い。
- テレビ・ビデオ・DVDを見る時間などのルールを決めている。
- テレビゲーム(携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム等を含む)をする時間を限定している。
- 子供に本や新聞を読むようにすすめている。
- 子供に最後までやり抜くことの大切さを伝えている。
- 自分の考えをしっかりと伝えられるようになることを重視している。
- 地域や社会に貢献するなど人の役に立つ人間になることを重視している。

(平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究)